

小林准看護学校のあゆみ

- 昭和32年 看護婦学校準備委員会設立
- 昭和34年4月 「小林准看護婦学校」開校
(小林市真方、浄信寺昭和幼稚園舎内)
- 昭和37年 医師会館兼小林准看護学校舎建設
(小林市真方)
- 昭和48年 医師会館兼小林准看護学校舎建設
(小林市細野、小林市立病院横)
- 昭和52年6月 名称を「小林准看護学校」に変更
- 昭和53年4月 小林西高等学校と技能連携教育を開始
- 令和5年3月 閉校



1 第2回戴帽式(昭和35年)、2 現校舎(小林市細野、小林市立病院横)建築直後の様子、3・4 第3回戴帽式(昭和36年)、5 第12回戴帽式(昭和45年)、6 最後の戴帽式(令和3年)、7・8 実習に励む学生たち



3月8日に小林市文化会館で行われた小林准看護学校最後の卒業式では、12人が卒業。卒業生代表の川崎妃加さんは、「最後の卒業生として誇りと自覚を持ち、地域の方々に貢献できるよう努力を重ねていきたい」と誓いました。
同校を卒業後、12人はそれぞれ西諸管内の医療機関に准看護師として勤務しつつ、小林西高校衛生看護科の生徒として2年間勉学に励みます。

Interview 平成8年度卒業生



**在学中の経験や得た知識
今でも仕事で活用**

診療放射線技師、准看護師
蒲生 和典 さん(高原町出身)

小林准看護学校在学中は、他の高校に進学した友人たちと違って夏休みなどのまとまった休みがほとんどなかったため、うらやましく思ったこともありましたが、しかし、学生のうちから患者さんと接することができ、いい社会経験になったと大人になった今は感じます。

医療は日々進歩していきますが、一方で変わらないものもあります。学生当時に先輩から学んだ知識や技術は今でも仕事で活用していますし、現在はそれを人に教える立場になりました。

Interview 昭和60年度卒業生



**戸惑いながらも
必死で過ごした日々**

看護師
滝井 ひとみ さん(小林市出身)

小さい頃から看護師になるのが夢で、家から通える位置にあり、医療機関で働きながら通える小林准看護学校(小林西高校)に入学しました。

入学後すぐに医療施設での実習があるなど、普通の学校生活と違って初めてのことが多く、戸惑いました。病院と看護学校と高校の3つを行き来し、テストや病院での勤務が重なることもあるなど、とにかく毎日必死だったことを覚えています。

大変な日々でしたが、学校で基礎をしっかり教えてもらったおかげで今があると思います。

西諸地域の医療を支えてきた小林准看護学校 64年の歴史に幕

西諸3市町
合同特集

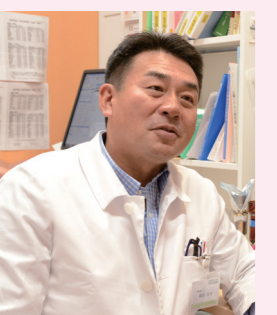
西 諸内外の医療機関に多数の卒業生を送り出してきた西諸医師会立小林准看護学校。西諸地域の医療を支えてきた同校が、3月8日の卒業式をもって閉校することとなりました。

小林准看護学校は昭和34年に開校。昭和53年には、同校の特色のひとつである、学校法人小林西高等学校との技能連携教育が開始されました。

この制度は、小林西高校と小林准看護学校に同時入学し、2年間で准看護学校・准看護師の資格を取得。残り2年で西諸管内の医療機関で勤務しながら高校卒業資格を得ることができるといったもの。

当時としては画期的な制度であり、昭和50年代には毎年50人近くが入学するなど、多数の看護人材を養成してきました。

しかし、近年の少子化や社会情勢の変化により年々入学者数が減少。令和3年4月に入学した12人の卒業に合わせ、64年の歴史に幕を下ろすこととなりました。



ご指導・ご協力いただいた関係者・地域の皆さまに深く感謝いたします

小林准看護学校は昭和34年の開校以来64年の長い歴史を刻んできましたが、今年3月8日に最後の卒業生を送り出しました。

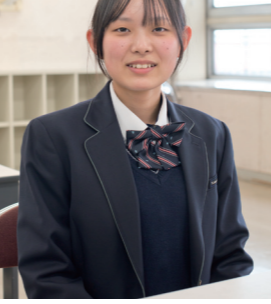
本校は、日本で准看護師養成所と高等学校が技能連携教育を行っている最後の学校でした。しかし、近年の少子化や講師の確保などの影響で、今年度をもっての閉校という苦渋の決断をいたしました。

これまでに2229人の准看護師を輩出し、卒業生の多くが西諸地域の医療チームの一員として活躍しています。これからもナイチンゲールのろうそくの灯とともに、本校の理念が心の中を照らし続けることを望んでいます。

開校以来、永きにわたりご指導・ご協力賜りました関係者の皆さま、見守ってくださいました地域の皆さまに深く感謝いたします。

小林准看護学校
園田 定彦 校長(第20代)

Interview 令和4年度卒業生



学校での学びを活かし、患者さんに寄り添える看護師へ

小さい頃から看護師として働く伯母に憧れていましたが、コロナ禍の中で自分にも何かできることがあるのではないかと思います。

看護師を目指す方法は他にもありましたが、少しでも早く現場に出て学びたいと思い、小林准看護学校(小林西高校)への進学を決めました。

小林西高校衛生看護科2年
森山 瑠唯 さん
(えびの市出身)

授業内容が専門的で苦戦したり、実習の記録を専門用語でまとめるのに苦労するなど、想像以上に大変な2年間でした。それでも、実習で実際に患者さんと触れ合うのが楽しく、試験なども仲間たちと一緒に乗り越えることができました。

閉校はとてもさみしいですが、学校で学んだことを活かし、患者さんの一番近くで寄り添うことができる看護師になりたいです。